

# 北海道の元気! NPO訪問

36 NPO法人 北海道バーバリアンズ  
ラグビーアンドスポーツクラブ

文・加藤知美

## ラグビーチームが地域型スポーツクラブ運営 ホームグラウンドを拠点に多彩な活動展開

◇ ニュージールランド遠征を機に夢が具体化

新緑の札幌市内を南下し、定山溪温泉手前の信号から国際スキー場方面へ向かう道を二キロほど進んだところに「北海道バーバリアンズ ラグビー & スポーツクラブ」と書かれた門柱があり、その奥には天然芝のグラウンドが広がっている。スポーツ団体として日本で最初にNPO法人格を取得した「NPO法人北海道バーバリアンズラグ

ビーアンドスポーツクラブ」が、長年夢見ていた自分たちのホームグラウンドである。

夢の始まりは一九七五年にさかのぼる。高校の授業でボールに触ったことがあるという程度で集まった五人の若者が小樽でラグビーチームを結成した。しばらくは同好会的な活動をしてきたが、一九八三年に転機が訪れる。ラグビーの本場ニュージールランドからの留学生がチームに加わり、ラグビーの技術はもちろん、まち中で老いも若きもラグビーを楽しむ環境があることを知った。

チーム結成から二〇年を経た一九九五年には、ニュージールランド遠征を行い、本場のクラブの姿を目の当たりにして衝撃を受けた。公園や広場には緑の芝生のグラウンドが広がり、まちのあちこちに白いゴールポストが立っていた。子どもたちは裸足で駆け回り、大人も幅広い年齢層のプレーヤーがゲームを楽しんでいた。ノーサイドを迎えた後にはクラブハウスでビールを飲みながら談笑する。そんな光景を北海道でも自分たちで手にしたいという夢となった。

◇ 念願のホームグラウンドを取得、地域で深化する活動

地域型スポーツクラブをつくり、いずれは自

前のグラウンドやクラブハウスを持つという目標に向かい、まずは一九九九年にNPO法人格を取得した。



幼児から中学生までが活動する  
ジュニアも10周年を迎えた

夢の実現を果たしたのは二〇〇七年。札幌市南区定山溪の旧NTT東日本の札幌総合運動場を取得した。野球場と陸上競技場が各一面ある約一万八〇〇〇坪のグラウンドとクラブハウスを購入した。使われなくなつて三年経っていたため、芝生も荒れ放題だったが、クラブメンバー自らがグラウンドキーパーとなり整備をすすめた。購入資金は企業の協賛による寄付を募り、約一〇〇〇万円を調達した。メンバーの人脈でラグビーを愛する個人や企業からの支援が寄せられ、他のクラブチームからも寄付金が届いた。残りは借り入れをおこし、その後の会費収入や寄付金収入で返済をすすめている。

ホームグラウンドが定山溪にできたことにより活動も深化し、地域のイベントに参加し交流を深



地域貢献活動として桜の植樹を行い、住民の憩いの場として開放

スポーツクラブとしての組織構成もこのグラウンドを持つことにより幅が広がった。ラグビー以外にクリケット、パークゴルフ、クロスカントリーなどのチームができた。クリケットの団体にグラウンドを使ってもらったことをきっかけに一緒に取り組むことになり、メンバーが複数の種目にまたがって活動をするようになった。ラグビーで

めている。また、グラウンドを利用しての社会人や大学生チームの合宿が温泉街の宿泊施設への滞在につながるばかりでなく、温泉客が朝夕に運動をするのに利用することもある。さらに、グラウンド敷地の一部は札幌市のパークゴルフ場として近隣の愛好者に親しまれている。

グラウンド整備にはtoto（スポーツ振興くじ）による平成二一年度総合型地域スポーツクラブ活動助成により約四〇〇万円の助成金を得てすめられた。こうして整備されたグラウンドは無料で貸し出され、スポーツ団体の利用のほか、春の植樹祭、冬のイベントなど地域貢献活動につながる活用や、消防署が利用しての緊急ヘリの離発着、救助用スノーモービルの訓練場など、様々な用途で使われている。

は複数のチームができていた。小中学生によるジュニアや女子のチームの活躍もめざましい。ラグビーの部活動がない高校の生徒も集まってくる。現在は小学生から六四歳までが現役でプレーしている。

さらに二〇一二年になって、冬季オリンピックの種目では唯一のボール競技であるアイスホッケーの底辺拡大を目指してジュニアアイスホッケーのチームも生まれた。ゆりかごから墓場までスポーツを楽しめる、そんなクラブの姿ができた。

#### ◇ 運営に生きるラグビー精神、次の夢へ前進

法人の理事長はクラブキャプテンと呼ばれている。登録会員は三〇〇名を超えており、事務局の常勤スタッフはグラウンドの管理運営や試合スケジュールの調整など多忙をきわめる。しかし、クラブメンバー一人ひとりが裏方もこなし、グラウンドの芝生管理やクラブハウスの整備などもメンバーの自主的な取り組みだ。ラグビーの精神である「一人はみんなのために、みんなは一人のために」が合言葉でもある。

活動のための資金調達も企業や個人からの寄付を募るほか、信販会社と提携して発行する「バーリアンズクラブカード」による協賛金などで増収をはかっている。寄附者が税優遇を受けられる認定NPO法人化も視野にいれつつ財政基盤の確立をめざしている。

自前のグラウンドとクラブハウスを持つ夢が

実現した今、

二〇一六年オリンピックでの七人制ラグビー正式種目採用や、

二〇一九年のワールドカップ日本開催に向けて、選手発掘や底辺拡大を新たな目標としてチームは進化を続けている。日本ラグビー協会が七人制ラグビーの普及・強化に協力可能なクラブチームとして選んだバートナークラブにも認定された。二〇一二年七月には、関東ラグビーフットボール協会主催の七人制ラグビーの大会が定山溪グラウンドで開催されることが決定し、東北地方のチームとともに企画運営にあたる予定だ。



専門業者のアドバイスを受け、メンバー自らが芝生を整備

◆ NPO法人北海道バーリアンズラグビーア  
ンドスポーツクラブ

所在地 札幌市中央区北10条西24丁目3

AKKビル6階

TEL 011-631-3125

WEB <http://www.hokkaido-barbarians.com/>